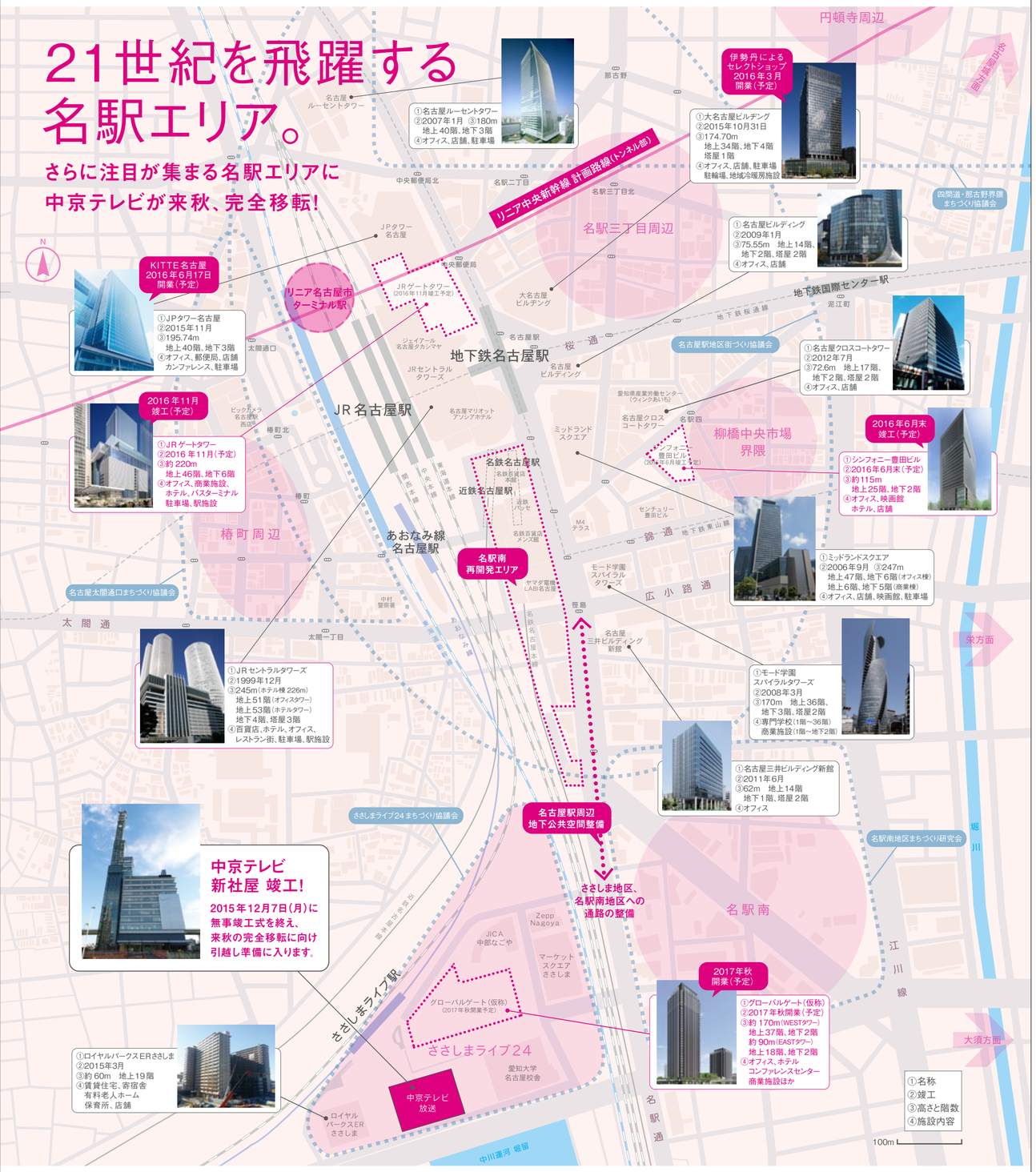
21世紀を飛躍する名駅エリア。

さらに注目が集まる名駅エリアに中京テレビが来秋、完全移転!



周辺エリアと連携した“中京圏の玄関”としての街づくり

2027年にリニア中央新幹線開通を控え、高層ビルの建設ラッシュが続く名古屋駅周辺。その目覚ましい発展は全国からも注目を集めています。どのような街を形成し、進化していくべきなのか。2008年より名古屋駅周辺の街づくりに携わってきた「名古屋駅地区街づくり協議会」事務局長の藤井修氏にお話を伺いました。

名古屋駅エリアの在り方は、公共の在り方につながっていく

街づくりというと地域住民主体の活動をイメージされることが多いのですが、「名古屋駅地区街づくり協議会(以下、名駅街協)」は名古屋駅周辺にオフィスを構える企業が集まった団体です。各企業の担当者が、企業ならではの知恵を持ち寄り取り組んでいます。日々さまざまな人が行き交う名古屋駅エリア(以下、名駅エリア)は、公共性が非常に高い場。どう街づくりしていくかは名古屋駅を利用するすべての人に関わってきます。『どうしたらみんなにとって良いエリアになるのか?』という課題は尽きません。この活動を通し、名駅エリアの在り方は公共の在り方につながっているのだと感じています。

現在、名古屋駅界隈の発展は目覚ましいものです。次々と新しい高層ビルの建設が進み、2027年にはリニア開通も控えています。オフィス人口の増加が見込まれるだけでなく、国内外から訪れる人も増えることでしょう。名駅街協では2014年に「名古屋駅地区街づくりガイドライン」を定め、それに沿った街づくりを進めています。名古屋市が市の目標として掲げた「スーパーターミナル・ナゴヤ」の形成と歩調を合わせ、空間形成戦略、安全性向上戦略、環境負荷低減戦略、コミュニティー形成戦略という4つの戦略を打ち出しました。

街づくりに欠かせない、周辺エリアや行政との情報共有

コミュニティー形成戦略としては、行政と連携して花を植えたり、打ち水イベントを開催したり、清掃活動を行ったりすることで地域のつながりを生み出しています。さらに周辺地域や他都市の街づくり団体と連携したコミュニティー形成が、私たちの大きな課題といえるでしょう。名古屋駅は“中京圏の玄関”と称されることも多いのですが、だからこそ名駅街協だけでこの街の在り方を考えるのは不十分ではないかな、と思います。周辺地域との連携はどうしても必要となってくるでしょう。

花植え

打ち水大作戦

清掃活動

近くで言えば、同じく開発が進むさざしまエリア、私たちのエリアとはまた違った街を形成する駅西エリアとの連携。また栄、大須、円頓寺から名古屋城といった名古屋の都心エリアとの連携も強めていきたいと考えています。名駅エリアだけでなく、名古屋に立ち寄ってみようと思ってもらうためには、周囲へのアクセスが容易であることと、名駅エリア以外の情報発信も積極的に行うことが重要です。さらに広域、岐阜や三重にとっても名駅の在り方は、観光面で影響をおよぼすでしょう。名駅エリアの街づくりには多くの人、団体が携わってほしいと思います。

コミュニティーを作る中で鍵となるのは、いかに情報共有できるか。行政や周辺団体それぞれが持つ情報・課題を共有することで、解決する問題もあるのではと思います。今、行政はどのような動きをしているか、他エリアはどのように魅力発信を行っているかなどを知ることで、街が持つ弱みを強みに転じることができるかもしれない。強みや課題を見つけるために、情報の共有と連携を図るべきと考えています。

さまざまな人が行き交う名駅エリアで、どう空間をシェアしていくか

歩行者案内板の実証実験

空間形成戦略としては、例えば歩きやすい空間を創出し、街中の回遊性を高めることが課題のひとつです。名駅エリアを歩いていると、遠回りしないと目的地まで行けなかったり、案内板がわかりづらかったり、自転車の置き場に困ったり、不便を感じることがあります。それらを解消するために、歩行者の動線整備をはじめ、自転車と歩行者の通行空間の分離、駐車場・駐輪場の見直し、新しい案内板の設置など、行政ではケアが行き届かなかったところにも我々名駅街協が関与し始めています。新しいビルを建設する際も、公開空地を広くとり、歩行者空間の形成に努めています。

ただ、車は通りやすいけれど、歩行者にとっては不便、というように角度を変えると良さ・悪さが逆転することもあります。多くの人が行き交うエリアだからこそ、まずは障がい者・お年寄り・子どもといった交通弱者を優先するなど、さまざまな人の観点から街づくりをする必要があります。名駅エリアという都市空間をどうシェアしていくのかは大きな課題です。

街が変化する中で形成する“名古屋らしさ”

名古屋らしい都市形成をと叫ばれ、果たして名古屋らしいとはなんなのか、という疑問があるかと思いますが、名古屋らしさとはこれから作っていくもの。今後開発が続く中で、私たちがどのような街を作っていくかが、名古屋らしさを生み出すのだと思います。

名駅街協のガイドライン2014は、数年後に見直すことが決まっています。その頃には、大きく街が変化し、今現在掲げている将来像自体を見直そうという話になるかもしれません。進化を続ける名駅エリアですが、周辺地域と連携を強化し、全国のモデルとなる取り組みを絶えず実行していきたいと思います。

お話を伺った方:
名古屋駅地区街づくり協議会
事務局長 藤井修 氏

CHU NEWS by 名駅経済新聞 http://meieki.keizai.biz/

中京テレビが引越しをする、さざしまエリアを中心とした名駅情報をお届けします!

名駅前「柳橋中央市場」エリアに新店オープン続々

ビル開発が進み日々新しく姿を変える名駅エリア。隣合わせにある私設市場「柳橋中央市場」(中村区名駅4)は、明治初頭に青空市場から始まり、100年以上もの歴史を持つ。都心の真ん中に位置する全国的にも希少な市場だ。普段一般客も利用できるが、特に年末には買い物客で大賑わいを見せる。

最近では市場内のエリアに、新しい飲食店のオープンが目立つようになった。柳橋中央市場で仕入れた地元食材を中心に使った料理と、日本酒を楽しめる「小料理バル ドメ」では、カウンター席の目の前に設けたオープンキッチンで日本料理の経験を積んだ料理人が腕を振るう。徒歩圏内に「イタリア食堂」、「スペイン食堂」など複数店舗展開する「MARU(マル)」は、カジュアルでリーズナブルに利用できる。市場内のはずれのビルの2階にあるクラフトビールを楽しめるビアレストラン「ワイマーケット・ブルーイング・キッチン」。このクラフトビールはなんと、1階のブルワリーで作られた「名駅産」のビール。7月には同ビル3階にバーベキューが楽しめる「柳橋テラス」がオープン。数種類のワイマーケットのクラフトビールを飲み放題(時間制限)で提供しています。